

新しい1年が始まりました。最近、仕事でも日常生活でもサステナビリティ

ティー(持続可能性)やSDGs(持続可能な開発目標)という言葉をよく耳にします。社会や環境に対する持続可能な取り組みが、企業にとって生存戦略のものになるという、大きな流れの変化が起きているのだと思います。

特に若い世代は地球環境や社会問題に敏感で、品質や価格、性能と同じようにサステナブルなブランドや企業かどうか商品を購入する時の判断材料の一つになってきて

女性管理職が語る

SDGs時代の事業運営

いるのかもしれませんが。先日、高校生から取材を受ける機会がありました。その時も海洋プラスチック対策で収集したペットボトルや再生可能な素材を使用した製品開発の狙いや課題について聞かれました。当社は2025年までに製品に使用する再生プラスチック材の割合を30%まで増やす目標を掲げています。デジタル化を推進する企業として、利便性の追求と環境への負担を減らす取り組みを両立させる必要

性とその社会的責任を改めて感じています。また、私自身管理職として、短期的にビジネス

日本HP 事業本部 部長
沼田 綾子氏



ぬまた・あやこ 2001年、コンパックコンピュータ(現日本HP)入社。Eコマースやマーケティングの部署を経て16年にコンシューマーPC製品部へ異動。17年5月から現職。

以上に感じます。

その際に管理職の重要な仕事は、事業部の目標をどうセットするかで値をどうセットするかです。売上高や利益の目標は本社から下りてきますが、常に先手必勝を心掛けています。「市場はこんな環境になるので、これくらいが見込め、ベーストシナリオはこれ」という予測と合理的な説明を早めに準備します。それを実現するための必要な条件、サポートしてほしい内容も一緒に見せておくこともポイントです。

さらに毎週、海外のチームと現状の進捗と課題を詳細に共有しています。これにより、さまざまなコミュニケーションがスムーズにできる土台になっていると感じています。国内外のチームと信頼関係を築きながら、成長を継続できる適切な目標を設定し、それを確実に達成していくこと。当たり前のことですが、これを週、四半期、年を工夫し続けていくことが持続可能な事業運営、そして個人の成長につながる。21年は一人一人がそんな前向きなマインドを持つ必要がある一年になると感じています。

大きなアップダウンを繰り返して荒波をくぐりぬけるようなかじ取りではなく、計画的に徐々にスピードを加速しながら目的に向かうような、そんなビジネスをしていく方が最終的にうまくいく

層注意を払うようになりました。一見良く見える

また、私自身管理職として、短期的にビジネス